

# 1. 学校評価総括

建学の理念	「心身ともに健康で、使命感を持つ、誠実な人間を育成する」	
教育目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 明朗で知性溢れる人の育成</li> <li>2. 不屈の精神をもって、使命を全うする人の育成</li> <li>3. 自己を確立しつつ、社会性豊かな人の育成</li> <li>4. この世に生をうけた幸福を知る人の育成</li> </ol>	
これまでの成果と課題	<p>昨年度の方針を継続し、中学部では、1、2年で基礎学力の習得、3年で高校内容の導入段階の学習とキャリア教育を行った。高1ではキャリア教育のまとめと進路決定を意識した指導を行った。高2では理系文系に分かれた授業を行い、各自の進路希望に寄り添う指導を心がけた。さらに、高3では、文系理系それぞれの英語と数学で、目指す大学のレベルにリンクした習熟度別授業を展開し、各自の受験に寄り添った指導を行った。さらに、新しい試みとして、海外の有名大学の学生とともに1週間英語のみで学校生活するエンパワーメント・プログラムを導入し、生徒たちのグローバル思考を喚起する実践を行ったが、大変好評であった。今後も継続していきたい。進学結果は、昨年度同様の進学実績に加え、東京大学2、医学部医学科(私学を含む)22、ワシントン大学をはじめとする海外大学7であった。本校のキャリア教育とグローバル教育の成果が表れつつあるものと考えている。ICT教育についても、国のGIGAスクール構想に参加し、中学生の一人一台タブレット端末使用へ向けて準備中である。今後は、ICTを用いた新たな教育ステージへと昇華させる予定である。また、アクティブラーニング型の授業や総合型の授業の研究など新入試へ向けての取り組みは引き続き行っていきたい。全学的に自立的学習態度の確立を目標とするとともに、新入試で求められる学力「主体性・多様性・協働性」を涵養していきたい。</p>	
	具体的目標	総合評価
国際人を育てる教育	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 留学制度の充実</li> <li>2. 進路指導の充実</li> <li>3. 学力をつける授業の充実</li> <li>4. 国際交流制度の充実</li> <li>5. 卒業生・在校生の満足度向上</li> <li>6. 施設・設備の充実</li> </ol>	<p>2月以降、新型コロナウイルス感染症のため、十分な学年の総括ができなかった。その際、保護者の皆様のご協力のおかげで、リモートによる生徒と学校とのつながりが確保できた。生徒、保護者、学校の三位一体教育の重要性を再確認した。具体的には、Classiなどを用いた家庭学習時間などの確認や担任とのやり取り、さらに課題の送付などで学力保証を継続するとともに、ICTを用いた授業配信の準備を進めた。その中で、生徒のかかえる課題が見えてきた。学業面では、授業を受ける姿勢は向上したが、家庭学習においては課題がなければほとんど何もしないという受け身生徒が多いことがわかった。自主自律を目指す学校であるだけに、今後も保護者の協力を仰ぎ、自主的で計画的な日常生活の構築ができる生徒指導を行いたい。自主性を支える基盤としての自尊感情などのメンタル面の醸成を必要とする生徒も増えつつあるので、今後もカウンセラーと協働で、自主性の回復を旨とする指導を行うとともに、社会人になっても通用するように「ルール」の存在を崩さず「辛さにも向き合い生きていくにはどんな力をつければよいのか」を自ら考えるためのサポートをする指導姿勢で臨みたい。</p>
入学志願者・入学者の安定確保	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 六年一貫教育の充実のための内部進学生支援の充実</li> <li>2. 外部児童・生徒募集の充実</li> </ol>	<p>2月以降、新型コロナウイルス感染症のため、十分な学年の総括ができなかった。その際、保護者の皆様のご協力のおかげで、リモートによる生徒と学校とのつながりが確保できた。生徒、保護者、学校の三位一体教育の重要性を再確認した。具体的には、Classiなどを用いた家庭学習時間などの確認や担任とのやり取り、さらに課題の送付などで学力保証を継続するとともに、ICTを用いた授業配信の準備を進めた。その中で、生徒のかかえる課題が見えてきた。学業面では、授業を受ける姿勢は向上したが、家庭学習においては課題がなければほとんど何もしないという受け身生徒が多いことがわかった。自主自律を目指す学校であるだけに、今後も保護者の協力を仰ぎ、自主的で計画的な日常生活の構築ができる生徒指導を行いたい。自主性を支える基盤としての自尊感情などのメンタル面の醸成を必要とする生徒も増えつつあるので、今後もカウンセラーと協働で、自主性の回復を旨とする指導を行うとともに、社会人になっても通用するように「ルール」の存在を崩さず「辛さにも向き合い生きていくにはどんな力をつければよいのか」を自ら考えるためのサポートをする指導姿勢で臨みたい。</p>
教育の意識改革・行動改革の実施	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教科会議の充実</li> <li>2. 教員組織の改革</li> <li>3. 学校評価の導入</li> <li>4. 教員評価制度の導入と研修の充実</li> </ol>	<p>2月以降、新型コロナウイルス感染症のため、十分な学年の総括ができなかった。その際、保護者の皆様のご協力のおかげで、リモートによる生徒と学校とのつながりが確保できた。生徒、保護者、学校の三位一体教育の重要性を再確認した。具体的には、Classiなどを用いた家庭学習時間などの確認や担任とのやり取り、さらに課題の送付などで学力保証を継続するとともに、ICTを用いた授業配信の準備を進めた。その中で、生徒のかかえる課題が見えてきた。学業面では、授業を受ける姿勢は向上したが、家庭学習においては課題がなければほとんど何もしないという受け身生徒が多いことがわかった。自主自律を目指す学校であるだけに、今後も保護者の協力を仰ぎ、自主的で計画的な日常生活の構築ができる生徒指導を行いたい。自主性を支える基盤としての自尊感情などのメンタル面の醸成を必要とする生徒も増えつつあるので、今後もカウンセラーと協働で、自主性の回復を旨とする指導を行うとともに、社会人になっても通用するように「ルール」の存在を崩さず「辛さにも向き合い生きていくにはどんな力をつければよいのか」を自ら考えるためのサポートをする指導姿勢で臨みたい。</p>